

1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771700907		
法人名	株式会社旭看護婦家政婦紹介所		
事業所名	旭グループホーム		
所在地	三豊市高瀬町上田瀬5388番地262		
自己評価作成日	令和元年8月5日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	令和元年9月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域交流の場として定着の実績が上がってきている。ご利用終了のご家族様方々も憩いの場として訪れ、現ご利用者様方々の慰問をして下さる場面が増えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

玄関を入るとホワイトボードに行事や外出時の利用者の写真がふんだんに飾られ、温かい気持ちになる。施設のいたるところに猫がおり、癒しの空間になっている。「利用者が幸せに生活できる」ように管理者・職員が思いを一つにしてケアに当たっている。勤続年数の長い職員が多く、加えて有資格者が多いことも当事業所の強みである。また、西香川病院との連携や、看護師の配置もあることから、医療連携体制が取れており、看取りにも対応できる。大正琴やヴィオラなど、多様な地域ボランティアの来訪、体操やレクリエーションも充実している。食事は新鮮な食材を使って手作りしている。少人数で家庭的な雰囲気である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員で考えた理念を共有確認すべく申し送り時読み上げをする。	スタッフ全員で考えた理念を事業所内に掲示するとともに、毎日申し送り時に読み上げて共有を図っている。日頃から管理者と職員のコミュニケーションを緊密にし、「利用者に幸せに過ごしてもらいたい」という思いを大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域への奉仕、寄付は積極的に行っている。	市主催の行事やカラオケ等、地域のイベントに出かけたり、大正琴、書道、ヴィオラ等、多様な地域ボランティアが来訪するなど、地域との交流が盛んである。また、隣家との付き合いや過去に入居していた利用者の家族などが今なお来訪することもあり、人と人の結びつきを大切にしている。	地域の介護についての相談役として、地域のニーズ把握に努め、当該地区における地域包括ケアの一翼を担うべく、できることから取り組んでいかれることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居のみならず個人相談支援を積極的におこなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員会議の時会議の報告と検討を行い意見の反映を図る。	元市議や過去に入居していた利用者の家族など、地域の関係者が参加しており、活発に意見交換が行われている。運営推進会議で話し合われた内容は、職員会議で報告し、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当の方々に協力を頂き相談したり情報を頂く。TEL等にて質問し協力関係の構築に努めている。	運営推進会議に市の介護保険課の職員が出席しており、その際に情報交換を行っている。また、相談や質問があれば電話等で随時、聞くなど、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会の設置、現状を話し合い協議しながら職員全体で取り組んでいる。	3か月に1回、身体拘束について話し合っている。物理的な拘束に加え、言葉による拘束にも注意を払うなど、職員全体で拘束をしないケアに取り組んでいる。	

7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会の設置、現状を話し合いながら職員全体で取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去において該当者がおいでた時、後見人の司法書士の方にご指導頂き今も情報を頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に充分説明し、話し合いの時間を設け理解納得して頂ける様図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置	家族の面会時にはお茶とお菓子を出し、必ずコミュニケーションを取るなど、意見を言いやすい関係づくりに努めている。また、運営推進会議にも家族が出席しており、外部者へ表せる機会がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議の中で意見を聞き、反映させている。	月に1回、開催している職員会議には、概ね全員の職員が出席し、意見交換を行っている。また、管理者は、どんなことでもすぐに意見や相談できる雰囲気づくりに努めている。職員の外部研修への参加なども積極的である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特別手当を考慮し向上心を持てる様支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に対しては金銭支援をおしまない。		

14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	イベント時(例 文化のまつり)他の業者グループの案内も回り、交流をネットワークづくりの一助としている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に密着し、観察、話し合い等により関係を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いは細部にまで行き、意向の確認にもおしみなく努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の想いと、本人の想いを対話の中から導きだす。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同作業を様々に考慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	オープン当時のご家族様でも訪問して下さる関係性の構築にて本人を支える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	話し合いの場としての雰囲気づくり、場所づくりを考慮、配慮している。	日頃から地域とのネットワークの構築に努めており、また開かれた事業所として馴染みの人が来訪しやすい雰囲気づくりに努めている。また、花見や買い物など、地元の馴染みの場所を訪問するなど、馴染みの人や場所との関係を大切にしている。	

21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の位置の配慮と職員の介入により、利用者様方々の連帯感を構築している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も来訪され、家族の相談、近況を伝えて下さる。外の畑の支援をして下さる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を常に聞き取るようにし、相談されている。	本人との対話を大切にしており、その中から思いや希望を把握するよう努めている。意思疎通が困難な場合は、家族からの情報をヒントにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等より聞き取り、ご近所の方々からの聞き取りを常に行い把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ほとんどの時間を共に過ごし、意向の聞き取りを常に行い把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三者共にはむつかしいので個別に聞き取り仲介し、把握して上で介護計画作成に反映している。	計画作成担当者が職員や家族、主治医の意見を参考に作成している。3か月ごとに評価を行い、1年ごとに計画を見直している。また、入院等で状態が変化した際はその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録と申し送りを柔軟に行う(言葉の端まで伝達し)共有をしっかりとすることにより、見直しにも活かしている。		

28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との連絡話し合いを密に行い、その度毎に柔軟に対応している。(通院等すべて事情により行う)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々により、作品づくり、演奏、カラオケ、習字、折り紙など。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院とは(担当医師)細部わたり連携出来ている。N病院の病棟さながらである。	西香川病院と緊密に連携を図っており、外来受診の支援や、必要に応じて往診も受けられる。また、整形外科などの専門科への通院支援も行っている。歯科往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当方の看護師が配慮し、各人の状態を熟知している。看取り時期において訪問看護との連携もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院とは密接な連携を構築している。通院は当方で行い家族への連絡を密にする。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	充分話し合っている。事態に応じて家族・医師との報告・連絡・相談を実践している。	入居時に看取りについて説明するとともに、状態に応じて家族と話し合っている。看取り期には、担当医から家族に説明をして方針を共有し、ケアの記録を詳細に残すことで、家族との情報の共有に努めている。医師との連携も緊密である。	

34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防より救急訓練の指導をいただいている。全員実践に励んでいる。応用出来た事もあり全員意気込んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練を行い反省会もし、次回へ活かすよう、又実践へ向けて充分に行っている。	年に2回、様々な時間帯を想定して、火災訓練を行っている。隣家にも協力を仰いでいる。過去、台風の際に停電を経験したことで、停電に対する備えも充実してきている。アルファ米や水、即席めんなどの備蓄も備えている。	引き続き、訓練の実施や職員会議にて啓発を行うなど、火災のみならず台風や土砂災害への対策について留意されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に職員会議にて問題にし、お互いを注意しあっている。	言葉遣いには特に気をつけており、気になる声かけがあればお互い注意するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	充分出来ているつもりである。言いたい放題、やりたい放題である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向を聞き取り優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	充分である。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	他の方面では支援出来るが、それは不可能であり問題である。(シェアハウスではない。)皮取り等の下手間は協働している。	その日の食材や最近の献立を参考にしつつ、その日その日でメニューを決めている。地元の人や職員から差し入れられた新鮮な野菜や果物などを使って、事業所で調理している。味付けや盛り付けなど、「利用者に美味しいものを」というこだわりが感じられる。	

41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録を共有し、出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	充分出来ている。口腔体操→口腔ケアは各人担当が注意をはらっている。週1回歯科医の訪問診療もある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのタイミングを把握し、各人トイレ付個室であるので細かく対応出来る。記録、申し送りで把握。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。利用者の排泄の際にはさりげなく観察、声掛けし、失敗のないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	調理への配慮で改善している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	共同生活の中でむづかしい。	2日に1回程度、入浴できるよう支援している。重度の利用者でも、湯船につかれるよう支援している。入浴を拒む利用者には声かけや、入浴日をずらすなど、工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	タイミング、状況を把握しながら誘導支援。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の処方薬の説明書と本人の状態をみて医師と常に連携できている。		

48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事に合わせた作品を共同で作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の移り変わりにドライブ見学支援。花見ドライブ、戸外散歩支援同行。	事業所前の道路は傾斜がついており、日頃の散歩が下肢筋力の維持につながっている。季節ごとに花を見に行ったり、ショッピングモールや市の行事、カラオケなど、地域のさまざまな場所に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来ない、理想論であって現実は無理である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話出来る様支援出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全員で三位一体のリビングづくりでほとんどの時間ほぼ全員でくつろいでいる。	玄関のホワイトボードには、行事の際の利用者の写真がたくさん飾られており、来訪者を温かく迎えてくれる。いたるところに猫がおり、癒しの空間になっている。職員と利用者が出した季節の飾りつけが生活感や家庭的な雰囲気を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コーナー設置。(しかし、全員同じ場所ではないらしいです。)		

54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人、ご家族の想いの部屋づくりに協力(ソファベットにて家族が泊まる事あり)</p>	<p>家族の写真や、職員が描いた似顔絵を掲示するなど、居心地よく過ごせるよう努めている。ソファベットにて家族が泊まれるよう便宜を図ることもある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>補助員により、トイレ排泄を可能にしている。</p>		